

スマートに掴む！ オフェンスリバウンド！



はじめに

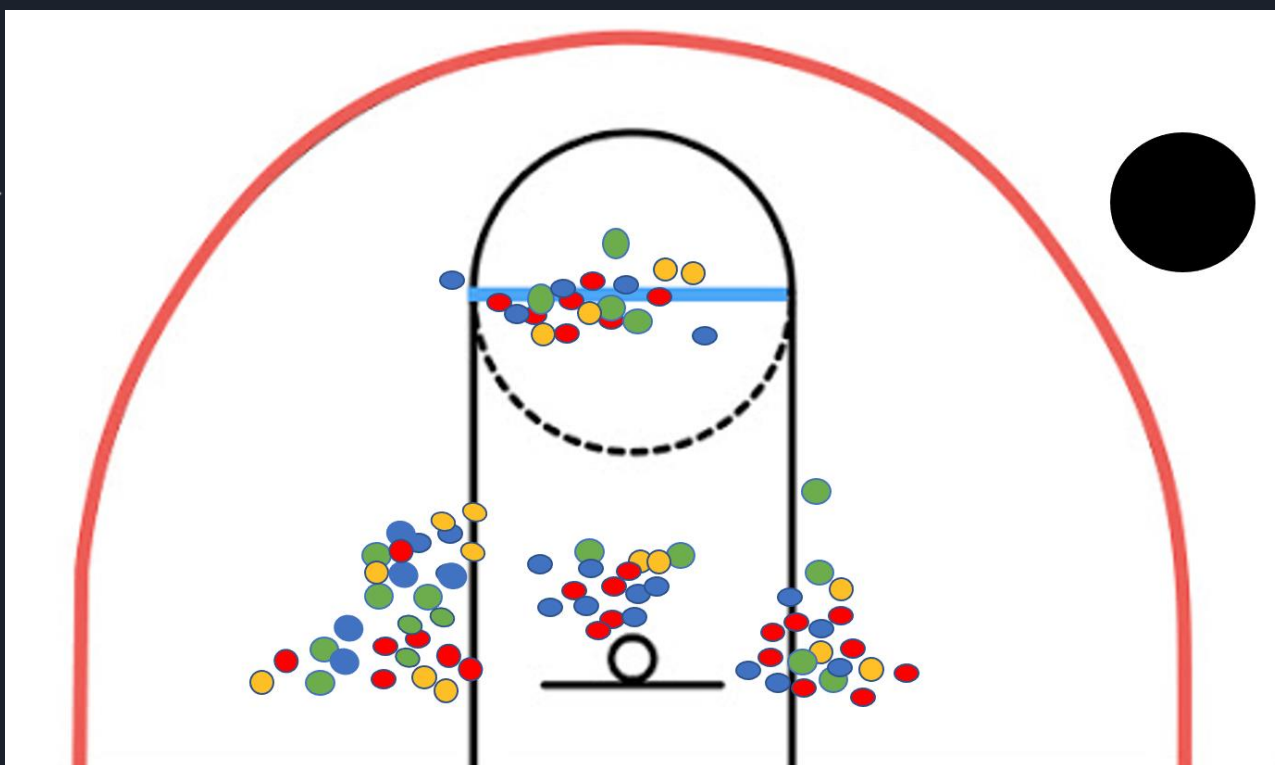
貸与データからB.LEAGUEでは主に身長の高い外国人選手にオフェンスリバウンドを依存していることがわかる。2018-19シーズンにおいて、1人の選手が8本以上のオフェンスリバウンドを取った試合は180試合以上あった。しかし、その中で日本人選手は中西良太選手の1人のみであった。このままでは日本人選手のリバウンドスキルは伸びない。そこで、今回僕たちはオフェンスリバウンドはどこに動けば取れるのかを調べることで、日本人選手のオフェンスリバウンドスキルを高めることができるのではないかと考えた。

方法

試合で打つことの多い、コーナーとウイングからの3PTシュートのリバウンドの落下地点を調べた。バスケ部の部員4名に協力してもらい、コーナーとウイング2カ所からそれぞれ20本ずつ打ち、その落下地点を調べた。

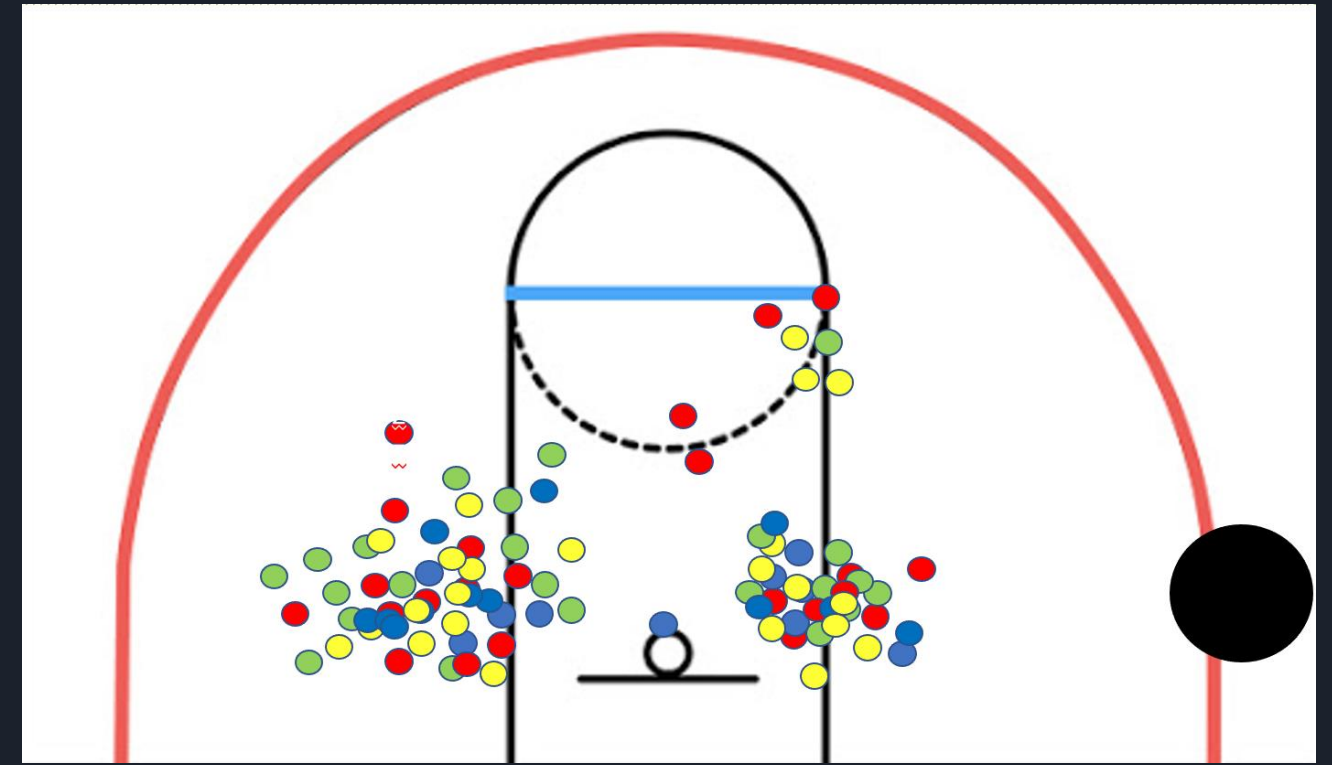
結果

・ウイングから打った時



ウイングからのリバウンドの落下地点は上図の様であった。落下地点となる確率が高い場所は順に、逆サイドのローポスト付近、同サイドのローポスト付近、ゴール下、フリースローライン付近であった。シューターによってデータが大きく変わることはなかった。

・コーナーから打った時



コーナーからのリバウンドの落下地点は上図の様であった。落下地点は主に、両サイドのローポストあたりに集中した。特に、シューターから見て逆サイドのローポストにより多く落ちている。また、シューターと同じサイドのハイポストあたりにも一定数落ちていた。シューターによってデータが大きく変わることはなかった。

考察

まず、狙うべきは逆サイドのローポスト付近である。このスポットにいる場合、アウトしてくるディフェンスを内側に押し返しペイントエリア外に落ちたリバウンドを狙っていけば効率的にリバウンドが取れるだろう。同サイドのローポストにいる場合も同様のことが言える。また、トップにいる選手は、センターが取れない範囲で最もリバウンドを取ることができる確率の高い場所、すなわちフリースローラインに行ってみるのも良いかもしれない。

データより、コーナーからの3PTはゴール下に多くおちることがわかる。シューターの多くは、打った際にシュートが手前に落ちるか、奥に落ちるのが感覚としてわかることが多い。コーナーから打つ際は、打った後のフィーリングを仲間に伝えることでリバウンドが落ちる場所を推測しやすくなると思われる。また、シューターは打った後、同じサイドのハイポストを埋めにいく様な動きをすることで、自分でリバウンドを取れる可能性が広がるであろう。

終わりに

今回の研究から得たデータを活用、意識して試合に臨めば、ポジションに関わらず日本人選手の取るリバウンド数は多少は上がるかもしれない。自分たちの試合でもより多くのオフェンスリバウンドが取れる様にチーム内で共有しようと思う。

○規定部門：バスケット

『情報・システム研究機構 統計数理研究所 医療健康データ科学研究センター』

『公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ』

『データスタジアム 株式会社』

以上のご支援いただいた関係者の皆様に感謝いたします。